

# 過疎地域の総合型地域スポーツクラブにおける会員参加型運営に関する研究 —吉野スポーツクラブを事例として—

スポーツビジネス研究領域  
5010A075-2 福田 雄介

研究指導教員：間野 義之 教授

## I. 緒言

### 1. 研究背景

文部科学省は、新たなスポーツ文化の確立を目指し、総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」と略す）を中心とした地域スポーツ環境の整備が施策の一つとして挙げられている。また、自主運営によるスポーツ振興とまちづくりが総合型クラブの育成と運営における基盤となっており（中西ほか, 2011）、会員参加型運営が経営学的に注視されている（村田, 2008）。

長積ほか(1998)は、組織コミットメントに着目し、総合型クラブの運営組織や事業展開は一人でも多くの住民を巻き込み、コミットさせることが重要であると指摘している。橋本ほか(2010)は、組織コミットメントを高める要因として集団凝集性を示唆している。また、組織コミットメントは組織に関与する度合いに影響されることから、クラブでの活動頻度に影響されると考えられる。

鈴木・藤井(2008)によると、地域愛着が地域内での協力活動への参加を促す動機となることから、総合型クラブにおいても同様の結果が得られる可能性が考えられる。地域愛着が高い人ほど地域活動に積極的に参加する傾向がある（石盛, 2004）ことから、総合型クラブでの活動頻度が地域愛着に影響を与える可能性が示唆される。

以上を整理すると運営参加意志の規定要因として、「組織コミットメント」「地域愛着」が挙げられ、それら2つの規定要因である「クラブ活動頻度」「集団凝集性」も間接的に影響を与えている可能性が考えられる。

奈良県はクラブ普及率が全国の中で41.0%と最低であり、特に吉野群ではクラブ普及が急務とな

っている。吉野群に唯一存在するNPO法人「吉野スポーツクラブ」では運営スタッフなどの人的資源の確保が課題となっている（高橋ほか, 2004）。そのため、過疎地域の総合型クラブでは会員参加型運営が求められている。

### 2. 研究目的

本研究では、過疎地域の総合型クラブにおける会員参加型運営に着目し、「組織コミットメント」「地域愛着」「運営参加意志」の関連要因・規定要因を明らかにしたうえで、会員参加型運営モデルについて検証することを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. 調査概要

吉野スポーツクラブに所属する高校生以上かつ吉野町在住の会員142名を対象に、2011年11月14日から12月2日まで訪問留置法による質問紙調査を行い、有効回答112部を分析対象とした。

### 2. 調査項目

調査項目は人口統計学的変数（性別、年齢、居住地、居住年数）、クラブ活動頻度、運営参加意志に関する10項目、組織コミットメントに関する12項目、集団凝集性に関する6項目、地域愛着に関する13項目を測定した。

### 3. 分析方法

「組織コミットメント」「地域愛着」「運営参加意志」の関連要因・規定要因を検証するため、それぞれの要因についてt検定による平均値の差を検定し、有意差が見られた要因について重回帰分析を行い、標準化係数を指標に各要因の影響度を比較した。さらに、共分散構造分析を行い、運営参加型運営モデルについて検証した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 組織コミットメントの関連要因・規定要因

組織コミットメント高群・低群間による「クラブ活動頻度」「集団凝集性」の平均値の差を検定した結果、ともに高群の方が有意に高い結果となった。また、「組織コミットメント」を目的変数とする重回帰分析を行った結果、「クラブ活動頻度」「集団凝集性」とともに組織コミットメントに有意に影響を与えており、集団凝集性の方が影響度が高い結果となった。

#### 2. 地域愛着の関連要因・規定要因

地域愛着高群・低群間による「クラブ活動頻度」「集団凝集性」の平均値の差を検定した結果、いずれも高群の方が有意に高い結果となった。また、「地域愛着」を目的変数とする重回帰分析を行った結果、集団凝集性のみ地域愛着に有意に影響を与えており、集団凝集性の方が影響度が高い結果となった。

#### 3. 運営参加意志の関連要因・規定要因

運営参加意志高群・低群間による「組織コミットメント」「クラブ活動頻度」「集団凝集性」「地域愛着」の平均値の差を検定した結果、いずれも高群の方が有意に高い結果となった。また、「運営参加意志」を目的変数とする重回帰分析を行った結果、「組織コミットメント」「地域愛着」とともに運営参加意志に有意に影響を与えており、「組織コミットメント」の方が影響度が高い結果となった。

#### 4. 会員参加型運営モデル

モデル適合度は、すべての基準値を満たす結果となった。

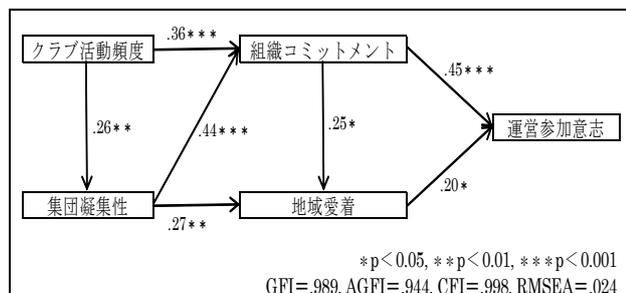


図1 会員参加型運営モデル

### Ⅳ. 考察

クラブ活動頻度と集団凝集性に相関がみられることから、クラブ活動をすることで集団と関わる機会が増え、集団における他のメンバーとの結びつきが強くなることが考えられ、クラブ活動頻度は集団凝集性を介して組織コミットメントに影響を与えている可能性が示唆される。

総合型クラブにおけるメンバー同士の結びつきが地域愛着に影響を与えることから、クラブ活動が地域における人間関係の形成に大きく関わっていることが推察される。また、クラブ活動頻度が地域愛着の規定要因とならなかったことから、他の変数を介して影響している可能性が考えられる。

地域愛着が運営参加意志の規定要因となることから、地域愛着と地域内での協力活動の関係と同様の結果が得られた。総合型クラブは、地域イベントの企画・運営に関わる機会が多いため、クラブ活動を地域活動として捉えていることが推察される。

### Ⅴ. 結論

本研究の結果から、「組織コミットメント」「地域愛着」「運営参加意志」の関連要因・規定要因に関して以下の5点が明らかとなった。

- ①組織コミットメントは、「クラブ活動頻度」「集団凝集性」によって規定され、影響度は集団凝集性の方が高い。
- ②地域愛着は「クラブ活動頻度」「集団凝集性」によって規定され、影響度は集団凝集性の方が高い。
- ③運営参加意志は、組織コミットメントおよび地域愛着の関連要因・規定要因である「クラブ活動頻度」「集団凝集性」とも関連がある。また、「組織コミットメント」「地域愛着」によって規定され、影響度は組織コミットメントの方が高い。
- ④クラブ活動頻度は集団凝集性に影響を与える。
- ⑤組織コミットメントは地域愛着に影響を与える。